

監修 広報・患者サービス向上委員会
発行 県立安芸津病院
広島県東広島市安芸津町三津 4388
Tel 0846-45-0055



病院理念

私たちは
患者様のためのまごころの医療サービスを行います。
地域のみなさまから信頼される病院づくりに努めます。
常に質の高い医療の提供ができるよう心がけます。



今年も各地でこれまでの最高気温を更新する暑い夏でしたが、やっと爽やかな季節となり、いよいよ秋本番です。

秋と言えば「食欲の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」「芸術の秋」など、いろいろ言われますが皆様は「何の秋」でしょうか？

秋と言えば草花も美しい季節です。秋を代表する花の一つに「コスモス」があります。「秋桜」と書きますが、花言葉は「乙女のまごころ」で、秋の風にそよそよ揺らぐ乙女のような花ということでしょうか。原産地はメキシコということですが、日本の風景にすっかりとけこんで、秋の代表的な花になっています。

さて、これからだんだんと冷えこんできますので、皆様風邪などひかないように気をつけてください。

職員紹介

この春より薬剤科部長として勤務しております。転任して早くも半年が過ぎようとしています。少しずつではありますが、仕事や病院の様子が分かってきたところです。今後は地域の中核病院として何を成すべきか、地域のために何が出来るか模索しながら、出来ることを着実に実行して行きたいと考えています。



ご指導のほどよろしくお願い致します。お薬について気になる事がありましたら、ご遠慮なく薬剤科に声をおかけ下さい。



薬剤科 畠田 正和



初めまして。広島病院から今年の4月に赴任してまいりました。要領も悪く不慣れな私を温かく見守ってくださる患者さまとスタッフの方々のご指導のもと、どうか1日のリズムがつかめてきました。患者さまの機能回復訓練はもとより、介護にあたられているご家族の介助法なども、運動療法の専門家としての立場からお手伝いさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。安芸津はジャガイモ、びわ、酒どころ、万葉の里...など、四季折々多彩な魅力があるそうですね。これからひとつずつ、じっくりと堪能していきたいとも思っています。



リハビリテーション 藤本 一清

ピロリ物語(最終回)



今回は、ピロリ菌が関係する消化管以外の病気、ならびに除菌したあとの胃の状態、さらには今後の感染率の推移についてお話しします。

ピロリ菌は消化管以外に、慢性蕁麻疹、鉄欠乏性貧血、動脈硬化性疾患、特発性血小板減少性紫斑病などの病気に関連があることが明らかになってきました。これらの病気は、ピロリ菌を除菌すると病気の進行が止まったり、治ったりすることがあります。

また、除菌された(ピロリのいなくなった)胃は、胃粘膜がきれいになり慢性胃炎の進行(胃の年齢)もストップし、消化性潰瘍(胃潰瘍・十二指腸潰瘍)や胃がんの出来にくい胃に変わっていきます。30年後の感染率は欧米並み(20%台)に低下するとされています。

以上、六回にわたってピロリ菌のお話しをさせていただきました。ピロリについてご質問のある方は、お気軽に内科消化器専門医(五石、藤堂、井上)にご相談ください。



院長 井上 正規

インフルエンザ治療薬 タミフルについて

インフルエンザは毎年数百人が脳症・脳炎を発症し、そのうち約3割の子供が死亡し、死亡に至らなくても重い後遺症が残るとても怖い病気です。インフルエンザ治療薬タミフルは2001年7月に発売されました。7年後の2007年2月にインフルエンザに罹った10代の子供がタミフルを服用し、自宅でマンションから転落死する痛ましい事故がありました。

そのため厚生労働省はインフルエンザと診断された患者は、タミフルの服用にかかわらず異常行動を起こすおそれがあることから、保護者は自宅で2日間は一人にしない様に注意を促しました。

それにもかかわらず、3月にタミフル服用後に10代の患者が2階から転落して骨折した症例が2名あり、4月にタミフル使用の注意文書が改正されました。それによると10歳以上の未成年の患者は、一部の患者(ハイリスク患者*)を除いて、原則としてタミフルの使用を控えること、と変更されました。

*ハイリスク患者…慢性呼吸器疾患(喘息等)、慢性心疾患(中隔欠損症等)の患者様

よく聞く「タミフル」。
本当にきちんと理解していますか？



タミフルは、中外製薬から発売されたインフルエンザの薬(製造元はスイスの製薬会社「ロシュ」)です。

体内でインフルエンザウイルス(A型、B型)を増やさないようにする薬です(C型や細菌性の風邪などには、効果がありません)。

効果として、インフルエンザの症状がさらにひどくなるのを抑え、症状が出ている期間を短縮します。ただ、インフルエンザのウイルスが増えていく時期に飲まない期待するほどの効果はみられず、医師の指示通り服用することが大事で、途中で服用をやめたり、飲んだからといってすぐに症状が軽減されるわけでもありません。

薬剤科 畠田 正和



編集後記

今回はベッドサイドに笑いとおもいを生かしている柏木哲夫先生の「太鼓判」の川柳をご紹介します。

「患者より顔色悪い夜勤明け」
「お守りを医者にもつけない手術前」
「腹を割って話してわかった腹黒さ」
「がん細胞正月ぐらいいは寝て暮らせ」
などです。

昔から「笑うかどには福来る」「笑いは健康に良い」と言われていましたが、今や科学的に証明されています。

例えば、笑うと免疫力のもととなるNK細胞が増え、逆に悲しみや苦しみによって免疫の遺伝子がOFFになり、病気になると報告されています。また、漫才の実演前後で血糖値を測定すると明らかに低下した、というデータもあります。皆様、「一日一膳」よりも「一日五笑」でストレスを発散し、明るく毎日をお過ごし下さい。

広報患者サービス向上委員会 福島 真理子